

## ろんだん 佐賀



### 池松 英治さん

ひよ子こども園かみみね園長

いけまつ・ひではる 1969年福岡県久留米市生まれ。佐賀大教育学部卒。クオリティゼミナール塾長・ひよ子こども園かみみね園長。2025年から同こども園グループ4園の統括園長。幼児から大学受験生まで個々の成長に合わせて教育する。佐賀市。

「園長はこの先、どんな保育をするつもりなのか！園の特色は何もなくなり、ただでさえ経営は厳しいのに！」

正直、その問いに当時の私は、答えることができませんでした。早く字を書いたり計算できることが、必ずしも将来の学力に直結しません。もっと大切な能力があることを、小中高生を教える中で知りました。だから英会話や〇〇式保育等を就任早々にやめたのです。むしろ問題は、先生たちのピリピリした空気が不満の巣窟の方でした。

現状を打開しようと幼児教育を学ぶ中で、お茶の水女子大名誉教授・内田伸子先生の存在を知り、藁にもすがる思いで当園の窮状と改革への迷いを打ち明けました。

すると内田先生は「池松

## 保育改革

先生、よくぞ思い切った改革をされていますね。素晴らしいことです。協力するわよ」と約束してくださいました。この瞬間こそが、現在のひよ子こども園における「子どもたちの可能性を引き出す子ども主体の保育」の確かな第一歩でした。

内田先生は、幼児教育の第一人者で、「子どもチャ

苦」の中での再出発。30年来的親友であり、「莫逆の友」と評してくださる今村先生のご期待に答えるべく献身しました。あれから7年。園は、確実に変わりました。園庭には子どもたちの元気な声が響き、自分の「遊び」学び」に夢中になっています。

そこにあるのは、先生が

主体性とは、自分で考え・判断し・自分の意思で行動する力のことです。残念ながら、この力が十分に身につけている中高生は多くありません。主体性のある生徒の方が成績が伸びるのを日々痛感しています。この点については、今後の連載の中で触れたいと思います。

育×働きやすさ」の両立によって、「ひよ子で働きたい」という声をいただくようになりました。令和7年4月には、「道の駅かみみね」の2階に「ひよ子こども園カミミネ」を開園しました。そこには医療的なケアが必要な幼児のための設備も整えられています。

## 求められる経営的視点

レンジ『しまじろう』」の開発者として知られています。文化功労者に顕彰され、瑞宝重光章を受章されています。

そもそも私に、この再建という大きな役割を託してくださいしたのは、今村病院理事長の今村一郎先生でした。古い園舎、大幅な定員割れ、経営難という三重

前に立つて教え導く「教導」の姿ではなく、「見守り・足場かけ・促し」という、保育者として高度な専門性に支えられた関わりです。子どもは純白です。教え導けば、マーケティングや逆立ちも驚くほど上手になります。

しかし、「主体性」が育っているかは別問題です。

保育改革を通して、子どもたちの主体性が育つと同時に、先生方の主体性も大きく引き出されました。業務改善に先生方が自ら考え・判断し・行動した結果として「働きやすさ」も整っていききました。いわゆる働き方改革は、後から時代が迫ってきた形です。

その結果、「主体的な保

現在、保育士不足と少子化は全ての園の課題です。これまでは良質の保育を追求することだけに集中できたのですが、経営的視点も求められる時代になりました。ひよ子こども園の先生方と共に取り組んだ保育改革と経営再建の経験を執筆して参りますので、どうぞ

よろしくお願いします。

